

静岡市ろうあ協会報

第007号

発行所 静岡市葵区城内町1-1
静岡市中央福祉センター
発行人 小泉 秀力
編集人 森 匡之
発行日 平成21年01月06日

第25回東海聴覚障害者連盟女性部幹部研修会

◇実施日 : 平成20年7月12日(土) ◇場 所 : 浜松市地域情報センターホール

弁護士、小笠原里夏氏に「憲法9条ってなに！！」の講演をして頂きました。「9条を変えよう」とは自衛隊の問題で全国で7000を超えています。情報が難しくわかりませんでした。ろうあ運動で忙しかったので、「憲法9条」の専門用語が多く、講演も長かったので、理解しにくかったです。ろうあ者に対してわかりやすい講演をして欲しかったです。(小泉賀代子)

第35回東海聴覚障害者連盟女性部討論会

◇実施日 : 平成20年7月13日(日) ◇場 所 : 浜松市地域情報センターホール

7月13日(日)9:30~16:00、浜松市地域情報センターホールにて東海聴覚障害者連盟女性部第35回討論会が開催され、参加しました。

討論会の内容は、問題の中から5つテーマが出されました。愛知県からのテーマは「キャッシュコーナー」、「公共施設におけるインターホン呼び出しベル」、三重県からのテーマは「チラシについて」、「宅急便について」、静岡県からのテーマは「マルチ商法について」の寸劇がありました。参加者の皆さんがわかりやすく受け止めたようで良かったと思えました。(黒澤シン子)

ありんこの里をつくる会応援チャリティライブ

◇実施日 : 平成20年10月13日(月・祝)

◇場 所 : 静岡県総合社会福祉会館



写真:ライブの様子

10月13日(月・祝)、静岡県総合社会福祉会館にて、「ありんこの里をつくる会応援チャリティライブ」が行われました。

出演者は、当ろうあ協会会員でおなじみの「月曜男」、「突然男」をはじめ、「手話漫談の会」で活動している方々が中心でした。それぞれが自分の持ちネタを披露し、会場は終始笑いの渦に包まれました。

目的は、「ありんこの里をつくる会」を支援する事で、今回の収益金約16万円は「ありんこの里をつくる会」へ寄付されます。

また、この日は約200人のお客さんが来場され、大盛況に終わりました。

※その様子が、当日夕方のNHKニュースで放送、また10月16日(水)の静岡新聞朝刊内の「静岡・中部ワイド版」に掲載されました。

月曜男のブログ↓↓↓

<http://szdi-center.cocolog-nifty.com/blog/>
(ライブの様子も一部掲載されています！)

<毎日新聞・朝刊 2008. 12. 10>

静岡市ろうあ協会

手話のお笑い動画ブログが人気

手話の世界のお笑いを全国に……。県聴覚障害者協会(静岡市葵区伊藤行夫会長)が運営するホームページ(H.P.)内にある動画ブログ「月曜男」が人気を集めている。聴覚障害を持ち、同区内で理髪店を経営する森崎興蔵さん(46)が日々の仕事や家族とのやり取りを手話で漫談風に紹介する内容で、「漫談が面白い」「手話の勉強になる」と、大阪府や神奈川県などでは「月曜男ファンクラブ」までできている。

【浜中慎哉】

動画は2〜3分程度 理髪中に寝た女性客の や、黒いスポンに穴が、毎週更新される。 前髪を切り過ぎた話 あるのを隠そうと、穴

静岡の理髪店経営・森崎さん出演



ブログ用の手話漫談をスタジオで撮影する森崎さん

県聴覚障害者協会HPの「月曜男」

大阪、神奈川にファンクラブも

のある部分の足をマシックで黒く塗りごまかそうとした妻の話などを漫談風に手話で紹介。内容の要約は文章で掲載されている。

同協会は03年6月にHPを立ち上げたが、手話になじみのない人にも興味を持ってもらおうと、06年5月に手話で身近な話題を提供する動画の掲示を企画。同協会の加藤伸一郎さん(49)が「ユーモアのセンスがあり、人を引き付ける魅力がある」と親交のあった森崎さん出演を依頼した。

「月曜男」は店の定休日にならなくてつけた。生まれつき障害を持つ森崎さんは、「耳の不自由な人を笑わせたい」と手話で話している。

りや表情をうまく使うこと」とする。開設以来、うわさでじわじわと広まり、通算アクセス数は2年半で13万件以上。手話のページとしては破格の人気ぶりだ。森崎さんが地方の講演会に講師として招かれるほどになった。毎週一つ話題を提供しないといけない森崎さんは、「ネタがないと焦ることもあるし、家族をネタにすると怒られるし、正直大変」と苦笑するが、「ブログをきっかけに全国に多くの知人ができた。人生つらいこともあったけれど、今が一番楽しい。全国に『こんな楽しい手話もあるんだよ』というのを伝えたい」と手話で話している。

～ありんこの里をつくる会応援チャリティライブを見て～

今回は月曜男&突然男の他に、「手話漫談の会」で活動している方々が登場しましたが、どれも自分の個性、そして、それぞれの手話の表し方、伝え方を持っていて、面白く楽しく見る事ができました。

また、今回初めて月曜男の手話漫談を直接見ましたが、動画ブログとは違った面白さがありました。それは多分、動画ブログでは「見えなかった部分」が見えるようになったからだと思います。うまく説明できませんが…。そういう意味でも、「手話を見て、内容を読み取る」と言う部分では、奥深い所があるんだなと感じました。

第6回静岡おだっくい祭り

◇実施日：平成20年9月13日(土)～14日(日) ◇場所：静岡市葵区、清水区



写真:参加者のみなさん



写真:賞状を手に集合写真

今年も9月13日、14日の二日間「第6回静岡おだっくい祭り」(よさこい形式)が静岡市葵区、清水区で開催されました。

静岡市ろうあ協会女性部チームは毎年参加しています。長年、手話ができる田中光子先生がボランティアで私たちの指導をしてくださっています。

メンバーは30代～70代と年齢層も幅広く、皆一生懸命練習しました。

今年は「あっぱれ富士」の演舞曲で参加、曲に合わせて踊りを覚えるのは、なかなか大変でまだまだ上手にはできませんでしたが、楽しく笑顔で踊りました。

二日目、駿府公園で演舞を終えてその場で解散、皆帰ってしまいましたが、後で、フィナーレにおいて静岡市ろうあ協会女性部が賞をいただいたことを知りました。

「えっ!! 賞をいただいたの!?!」と、たいへん驚き、ステージに上がって賞状を受け取れなくて本当に残念でした。

後日、アイセルでの練習日に、実行委員の方が賞状と記念品を届けて下さいました。

「いつまでも踊っていただきま賞」と5年連続参加の「Thank's 5th 賞」をいただきました。

賞をもらうなんて思ってもいなかったのも、とてもうれしく思いました。

これからも、皆元気に楽しく参加したいと思います。

女性部部长 石垣恵美子
健康体操部代表 海野江里子



写真(上):いつまでも踊っていただきま賞
写真(右):Thank's 5th賞



第49回政令指定都市身体障害者福祉団体連絡協議会



写真：開会式の様子

◇実施日：平成20年9月20日(土)～
9月21日(日)

◇場所：愛知県名古屋市

全ての派遣が認められるように政令指定都市だけではなく、全ての全国の各県も同じだと思いますので、国に対して要望した方がよいのではないかと可決しました。

次に24時間(緊急)体制の問題を議論しました。119・110番は手話通訳者の名簿を出して対応してありますが、24時間体制はまだまだという状況です。静岡市も同じです。しかし広島市では119番は消防局・110番は警察署に名簿を渡して対応してあります。24時間体制(開庁時間外・土・日)は手話通訳者のコーディネーター担当で市からの携帯電話を購入して予算も取って対応しているそうです。携帯電話のアドレスをろうあ者の会員を登録してあるそうです。私として疑問がありました。質問しなかったのが反省しています。携帯電話が持っていないろうあ者はどうなるのでしょうか?手話通訳者のコーディネーターが責任でいつ、どこで、持ち込むの?それは問題があるなあと思いました。結果を国に対して要望を出すことを可決しました。

その他、いくつかを提案を議論していい勉強になりました。静岡市から提案を出したが、内容を見ると情報交換と変えて市からの情報を話してくれました。静岡市ではコーディネーターの身分と臨時職員の問題を説明しました。事業は行政かまたは委託先はどこかを尋ねました。

委託先はほとんど情報提供施設でした。事業は手話通訳者養成事業と手話奉仕員養成事業と手話通訳派遣事業です。情報提供施設で非常勤務職員(1人)を設置して事業を行っています。各区の身分は非常勤務で窓口・相談だけだそうです。福岡市だけの場合は前に初めは身体障害者連合会に委託をやってきましたが、今は市ろう協から市に要望(交渉)した。市から市ろう協の様子を見て信頼関係を持った上で身体障害者連合会をやめて直接で委託となりました。法人が無くても大丈夫のかと聞いたら、予算(運営費・経済的など)は市が作ってその支出の通りに従って運営するそうです。社会福祉協議会に委託は無いそうでした。静岡市の場合はどうなるのでしょうか。委託先の問題とコーディネーターの身分の問題も含めて取り組みしなければならないと思いました。

分科会が終わった後、交流会をした。2次会はろうあ者だけ集まって居酒屋へ行って飲み交流会をしました。楽しい日を過ごした。

2日目は講演会と演奏会を聞いて凄く感動した。

講演会はウ・カブソン氏(障害者児を持つお母さん)が話を聞いて驚きました。その人は障害者児を生まれて勇気を持って外へ出て市民の人達と交流したり話したりしました。障害者児はイ・ヒアという名前です。先天性の障害により、両手の指が2本ずつしかなく膝下の脚もない。その人は5歳からピアノを始めてもう25年間続けています。練習は1日で10時間以上で毎日やってきたそうです。参加者が感動を受けて盛り上がり閉会しました。

来年は川崎市で行うことになりました。1日目は式典・分科会、2日目はボーリング大会を中止し、代わりに講演会または演奏会(未定)をやる予定です。

2日間参加してとてもいい情報を集めて地元へ帰ってよりよい活動をしていきたいと思いました。

会長 小泉 秀力

第35回東海デフ・ヤングフォーラム

◇実施日：平成20年9月27日(土)～28日(日) ◇場所：浜松市福祉交流センター

9月27日(土)～28日(日)、浜松市福祉交流センターにて、「第35回東海デフ・ヤングフォーラム」が行われ、静岡支部からは、手話サークル関係者を含めて約10名の参加がありました。

内容は、1日目が「お楽しみ企画」、東海地域の仲間との楽しく交流を目的とした「交流会」、2日目が東海聴覚障害者連盟副理事長の伊藤行夫氏を講師にお招きし、「特別支援学校の現状とは？」の講演が行われました。この後、入替制分科会「災害／突然起きた時の対応とは？」と「手話／新しい手話を作ろう」に分かれて、それぞれ討論しました。

9月27日(土)～28日の二日間、東海デフヤングフェスティバルに参加しました。

一日目は開会式とお楽しみ企画をやりました。

交流会は愛知県や岐阜県、三重県の人達と交流が出来、皆でゲームなどを楽しんだりした。ゲームは三種類あり、都道府県の有名な産物や建築物などの絵を書いて、どこの都道府県かをあてるゲームや要らない新聞紙や雑誌などを使って、問題の答えとなる文字を新聞紙や雑誌などから切り抜いて貼り、答えにするゲーム。そして最後にジェスチャーでゲームをしました。笑いあいのゲームだったので楽しかったです。

夜の交流会では、久しぶり会う人達と初めて会う人達と交ざって色々な会話をしながら飲んだりしたので、友情を一段と深める飲み会になり良い思い出になりました。

二日目は、講演と分科会です。

講演は伊藤行夫さんの『特別支援学校の現状とは？』をタイトルをあげ、静岡の聾学校名反対運動の流れなどを話してくれました。

岐阜県、愛知県、三重県は聾学校の名前が残っているけど、安心出来ないので静岡で反対運動した内容を参考にし、これからも聾学校の名前を残すように頑張ってもらいたい。

講演が終わった後、分科会をやりました。分科会は災害の内容と手話です。午前と午後それぞれ交代しながら2つの分科会を受けた。

災害では、地震・豪雨・津波という災害について、ろう者がそれぞれの災害にどう対応するかを話し合いました。起こってからでは遅いので、起こる前に出来ることをやらなければいけないとわかりました。例えば、地域のコミュニケーションや避難場所。そして、自分の周りにすんでいるろう者や通訳者、サークルの人などの把握など、大切な事ばかりでした。

手話ではまだ作られていない手話を皆で考えて作ってみたりしました。時間があっという間に経ってしまったので、スムーズに進めず作った手話は少なかったです。しかし、色々な人と冗談を交えながらの時間は楽しく過ごせたと思います。

二日間色々な出会いがあり、改めて手話で通じる事の楽しさを味わえたので良かったです。(桑子照雄)

9/27(土)～28(日)、浜松市で行われた東海デフヤングフォーラム2008に参加してきました。

東海四県からろう青年80名が集い、1日目は交流、2日目は討論という内容でした。

1日目の夜は60名ほどの飲み会で、久しぶりに会う人、初めて会う人とワイワイ飲みながら楽しく交流しました。

2日目の午前の討論では、新しい手話を作ろう、というテーマで誕生月のグループに分かれてスポーツをテーマに今までになかった手話を考え合いました。「ビーチバレー」「フェンシング」「新体操」「フットサル」「アメフト」などを作りました。これらの新しい手話が定着するかどうかは分かりませんが、面白い表現の手話や、なるほど、と納得する手話もありました。新しい言葉がどんどん出てくる中で、手話も新しい手話を考えていくための活動もろう協には必要だと思いました。

午後は災害についての討論、「地震」「大雨」「火事」のグループに分かれ「突然起きたらどうするか」をテーマに話し合いました。

「地震」は「その時になってから何をするか」では予測できないので、常に非常袋などを用意し、避難所を確認し、いつでも対応できるようにした方が良い、という意見が多かったです。「大雨」は最近のゲリラ雨により、交通機関がマヒして帰れなかった人の体験話を聞きました。台風はニュースなどで流れているので事前に予測は出来るが、ゲリラ雨は気象予報士でもお手上げなくらい予測不能なので、自分の身体は自分で守るためにも、携帯メールサービスのマイレスキューや、消防署、市町村が配信している携帯サービスに登録するといった意見がありました。「火事」は職場旅行などでろう同士で固まって泊まるのではなく、健聴者と一緒に泊まったり、火事が起こって避難した後に人数確認できるように、事前にホテルに泊まる人の部屋番号などのリストを作成して管理したり、ホテルのフロントに、「耳が聞こえない」ということをきちんと伝えるなどの工夫が必要という意見がありました。どのグループも共通して言えることは、突然起こってから対処するのではなく、いつ起こってもいいよう事前に用意することと、地域や職場の人と普段から仲良くしておくことが大事だということでした。

来年は愛知県で行われるので、交流・討論のために多くの青年が参加して欲しいと思います。(山本直樹)

第42回全国ろうあ青年研究討論会

◇実施日：平成20年11月22日(土)～24日(月) ◇場所：高知県高知市

2008年11月22日(土)～24日(月)、第42回全国ろうあ青年研修討論会in高知へ参加してきました。

初日は、高知県民文化ホールにて開会式、記念講演、交流会。

講演会では、「障害者権利条約と手話」。パワーポイントを使って、障害者権利条約についてわかりやすく説明し、次は新しい手話の学習、手話の違いについて、学びました。

交流会は、会場の近くにある「三翠園」で行いました。全国から集まった青年部の仲間と一緒に皿鉢料理をおいしく頂き、お喋りしながら楽しめました。

二日目は、高知女子大学にて、私は分科会『労働』を選択しました。静岡からは私、一人ですが、なかなか、一人という勇気があるものです。なぜ、労働を選んだのかは、情報保障の交換・相手の経験から成功した事を参考してヒントが欲しかった。まず、事前アンケートから始まり、ポイントを見つけてそのテーマで討論することでした。

1. 職場での健常者とコミュニケーションの方法

→ろう者を理解してもらうためには、職場に手話の勉強の場を設ける。わかったふりをしないで、積極的に話しかけてみる。そして、職場の人と仲間になる努力が必要！

2. 会議・朝礼などでも情報保障

→上司と相談しながら、周りの人に情報保障の必要性を話す。そして、職場でできそうな具体例を提案して行く事が大事！

と、いう結果が見られ、また障害者雇用率についてや、参加者の経験の裏話もたくさん聞いて、いい勉強になりました。

三日目は、閉会式で各分科会の発表を聞きました。どれも目標があり、これからもっと磨いていきたいと思いました。

この三日間はいい勉強になり、全国の友達が増えてきたことが楽しかったです。来年は、「岡山」ですが、行きたい気持ちは、ますます高まるばかりです。今年参加出来なかった方、来年岡山へ行こうではないか？(梅原綾乃)

小倉が参加した分科会は第一分科会「手話」。講師は中西久美子氏(滋賀県聴覚障害者協会副会長)。参加者数は55名、静岡県からの参加者数は小倉、高橋、辻の3名。手話講習会の講師をするにあたっての心構え、大切なことなどを学んだ。

以下、要点。

・原点をはっきりとさせておくことが肝要。なぜ講師を務めたいのか、目的形成につながるきっかけを明確にしておくこと。

・コミュニケーションとは何か、を常に考えておくこと。コミュニケーションとは何を指すのか、なぜ生活に必要なのか。

・グループ議論を通し、お互いの理解を深め、講師を務める上での自信へつなげた。

帰路、高松により、讃岐うどんを2軒はしごして食べた。1軒目はあたり、2軒目ははずれだった。

来年の開催地は岡山県。日本人なら誰でも知っている日本昔ばなし「桃太郎」発祥の地である。今回の高知のように面倒な乗り換えもなく新幹線だけで行けるので、ぜひみんなで行こう！

P. S. 希望者だけで今から部内で旅費積立をやりませんか？

今から1月3,000円集めれば、11月には33,000円貯まります。(小倉健太郎)

全青研のメインである分科会は「労働」「政治」「スポーツ」など6つあり、私はその中から「手話」を選びました。

「手話」を選んだ理由は、今年から手話奉仕員養成講習会の講師をやるので、講師の心構え、上手く教えるコツなどを学びたいと思ったからです。まず、(財)全日本ろうあ連盟監事 中西 久美子氏に「望ましい講師像とは」をテーマに講演していただきました。

病名も退院日も知らされずに、一人寂しく入院していた高齢のろう者が、手話通訳者のおかげで、病名がわかり、家に帰りたいという自分の意思も伝え、無事に家で安らかに息を引き取ることが出来たことから、手話通訳者を育てる必要性を実感したという自らの体験談を話してくださいました。これが中西氏の講師としての「原点」だそうです。

中西氏に「講師としての原点を持っていますか」と問われた時に、ただ漠然と頼まれたから手話講師をやっている自分が恥ずかしくなりました。しかし、のちにグループに分かれての討論の時、手話講師をやっている人達に講師を始めたきっかけを話してもらいましたが、ほとんどが私と同じ「頼まれたからやっている」という理由でした。青年部員である私たち手話講師が、そういう漠然とした理由のまま手話講師をやっているようでは、若者の手話講師不足を解消することが出来ません。いかに、どの様にして若者達に手話講師の必要性を実感してもらうためにはどうしたら良いのか、討論し合いました。結果、いきなり手話講師をやると頼むのには抵抗があるので、まずは青年部へ勧誘し、共に楽しく活動していきながら、少しずつ手話通訳者養成の必要性を話していくという意見でまとまりました。また、「理想の講師像とは何か」も討論し合い、受講生の持っている素質を引き出せる講師、身だしなみがきちんとしている・時間を守る講師、魅力のある手話を表せる講師、話の種を沢山持っている講師など、様々な理想講師像が取り上げられました。

手話講師初心者である私にとっては、非常に参考になる分科会でした。この分科会で得たことを糧にし、より一層精進していきたいと思えます。

最後に・・・、高知のカツオのたたきはおいしかったです☆来年は岡山で開催されます。今年参加出来なかった青年部員の皆様、来年は一緒にきび団子を買に行きましょう♪(辻麻美子)

去年より内容が濃かった。ツキがあった・(リーダー研修会より)

全体会は、高田英一さんの講演。実は県ろうあ大会in御殿場で聞いたので略しますね。一言でいえば、「手話は言語であること」の主張。

分科会は「手話」であの手話研修センターの中西さんに講演を聴いた。手話のテーマは「若いう者の講師を増やすためには？」である。

なぜ、私が「手話」を選択したかという、手話講師になる心の準備として勉強したかったから。静岡でも、手話奉仕員養成、手話通訳士養成講座を開いている。若いう者が手話講師になることが増え、私にも講師にならないかという打診が来て来たので、以前勉強として、入門を選択した。

さて、と講演が始まると、いつもは云々と聞いてて眠くなるが、中西さんは違う。いきなり、みんなは手話講師になりたかったのか？って問うように話を始めました。手話が必要なのはろうあ者だけじゃない！ろうあ者だけだとおもうか？って聞かれ、私が考える。手話通訳が必要なのはろうあ者と話したい人たちも含まれていると答えを聞かれて、へえへえまくりな私は素人ののだろうか。。。

中西さんが主張したポイントは3つ

- ・原点を持って考えてほしい。(高齢者になっても安心して手話通訳者を頼めるようになりたい)
- ・立場を変えて考えた事あるか？(盲ろう者、車いすの人がわからないって言ってはいけない)
- ・日本語対应手話と日本手話は区別しない。(そもそも特徴だけで、日本の手話は一つ。)

誰が区別したんだってという怒りが強かった。

手話講師になるための心構えをどーんと教わった感じ。未熟ですいません。中西さん。でも飽きない講演で楽しかった。

2週間経った今でも明瞭に覚えている事がある。それは、飲み屋で発生した大問題。

かんぱーい。みんなのかけ声でビールを飲む。小倉と目を合わせてなんか酸っぱいよね？気づいたのはうちらを含め3人くらいしか。。。毎週飲んでるから。。。という疑問を持ちながら通訳者にビールの交換と確認をしてくださるとお願いしてみました。原因はビール樽が古いままだったこと。

そこで終わるはずだったのですが、トラブルはまだ続いたのです。

唐揚げのあんかけにつけ合わせていたレタスに虫が入っていて、女性陣の悲鳴が。。。

店側に不備が2回もあり、虫の入った唐揚げを交換をお願いするが対応が悪かったため、中西さんが「楽しみに全国各地から高知に集まって飲んで楽しむことを壊した居酒屋の責任というものは無いのか？」と怒ったのである。そこで健介は思った。現代、クレマーになりたくないという悪印象を持っていたが、クレマーと言ってもお店側に問題があって正論を持って問題を言う人は悪くない。逆に、お店にもいい影響をするのだと思う。

健聴者でも問題を指摘する事はよく聞かすが、ろうあ者は消極的である事が多く聞きます。でも、中西さんはろうあ者でも健聴者にも負けずに問題がある事を指摘して、交渉をするという強い気持ちをもつことが大切だと思った。

それでも中西さんは緊張したとおっしゃる。中西さんが交渉するという姿が、若い青年部の人たちの手本になったと思った。

人生で一番自分を見直す機会が出来たと思う。現場を見た私でさえ貴重な体験であった。中西さんありがとう。(高橋健介)

2008年11月22日～24日高知県にて「全国ろうあ青年研究討論会」が行われ、参加してきました。

1日目は午後から高田英一氏による「障害者権利条約と手話」というテーマで記念講演がありました。特に手話と言語の違いについて分かりやすく説明して頂き、何より「手話は一つである」という言葉がとても印象に残りました。

2日目は分科会で、今年初めて設立された「ジェンダー」に参加しました。ここ最近新聞や本で「ジェンダー」という言葉をよく見かけるようになり、「ジェンダー」とはどのようなことなのか知りたいと思い、選択しました。

「ジェンダー」とは、例えば”会社では女は管理職になれない”、“家庭の主人は男である”という文化的・社会的な差別のことで。

最近、大相撲の土俵に女性は上がることはできないという問題がありましたが、女性だからという理由だけでダメだと決め付けたものであり、「ジェンダー」に当てはまります。会社でも女性はお茶くみをやる、スポーツのマネージャーは女性であると無意識に女性はこうであるべきと決め付けているのではないのでしょうか。文化だけでなく、日本の古くからある言葉にも「ジェンダー」があります。「男勝り」という言葉は、“男は女より勝っている”という考えが前提であるとのことでした。そのほか「量と女房は新しいほうが良い」という諺(ことわざ)も、量というモノと女性を同じ位置づけで見ているため、「ジェンダー」になるとのことです。それだけ日本の昔の女性は、地位が本当に低かったのだと実感させられました。最近男女平等になってきましたが、まだまだ見えない差別は残っていると思います。

この「ジェンダー」をなくすことを「ジェンダーフリー」といいますが、ジェンダーフリーが進んでいる国はノルウェー、アイスランド、スウェーデンと欧州が多く、日本は31番目の位置づけになっています。「ジェンダー」をなくすためには、例えばお茶くみは女性であるべきという風潮が会社にあるのなら「皆で一緒にやろう！」と勇気を出して自分から代案を出し、おかしいと思うことがあれば、周りの人に相談して味方をつけて立ち向かうことが大切です。不満を言うだけでなく、自分がどうしたいのか、どうして欲しいのか考えて行動することから本当のスタートになるのだと思いました。

また、「ジェンダー」を知らない人に対してジェンダーについて説明し、広げていくことも活動の一つであると考えさせられました。

新しい知識を得ることができ、大変有意義な全青研となりました。(杉山友香)

0 午ことム0会会なツ育ムの使トめバる皆増レ こ関の：練支名加好育県1
 後の考と円で館おでむプあいス レののえ！にと係参。習部を者会館総2
 6 同えしずはか、あにレるラ、度！で心てをよや者加今にの超はが館合月
 時好てつ練ら現るは！スリレなボはもい楽る、が大な加年、名わ平会2
 3 会いボ集習。もをポ！シ運！財るし不最は！っし部富。れた。バ社1
 0 はる！めの用は。っ通！動ルと のむ 近！でてて員士もや足。レ会金
 分毎よル、たし、てしツ続ブがは もか 気のくあはいも。初この！館
 ！月うをいびてボこて。さとで全ら もの なる静た 駿最。の！階、
 午第だ購ずにい！い仲ませいき身すえしがた なる静た 駿最。の！階、
 後二。入れ一るルの間たるっ、を。切れなめ。岡のけつ、は日！のルの静
 8 金しは人。をス意、たパ使っない、経て。市だがけ小1のルの静
 時曜 た子1同福ポ識チ スう てい人バ済きた から がて 笠0参同体岡
 3 日 い！0好社！を！味をやた い。が た

平日バレー同好会、解散の機！？



練習にむ参加者と、どこか物げなバレーボール(12/12小倉 景

（いにかがだろ、うか、い、て、み、て、は）
 のどる館分
 かに、静
 岡県総
 合社会
 福社
 会

《平日バレー同好会・活動情報》

- 日 程 1/9(金)、2/13(金)、3/13(金)
- 時 間 18:30~20:30
- 場 所 静岡県総合社会福祉会館6階 体育館
- 持 ち 物 体育館シューズ、タオル、着替え、飲み物、各自必要な物
- 参加対象 ろう協会員、手話サークル関係者(ろう、健聴の関係はありません)
- 目 的
 - ・月に1回(平日夜)は身体を動かしてメタボ対策。
 - ・男子バレー東海大会で1勝を目指す。
 - ・ラリーを楽しんでチームプレーを学ぼう。
- 連 絡 先 山本直樹(FAX/054-270-8115)

中部ブロック身体障害者ボウリング大会(11/9開催)

[団体戦]

Aチーム(柏木、内山、他2名)…優勝

Bチーム(朝倉、佐藤、他2名)…3位

[個人戦]

柏木…優勝

「ゆずり葉」制作募金について

静岡支部で目標額の約30万円に到達する事はできなかったものの、たくさんの募金が集まりました。また、静岡県全体で目標金額の120万円を大きく超える、約250万円が集まりました。募金にご協力くださった皆様、ありがとうございました。

第4回ありんこの里をつくる会チャリティ音楽祭

日 程 平成21年2月14日(土)

開場13:00 開演14:00 閉演16:00

大ホール→中ホール
に変更しました！！

場 所 静岡市清水文化センター 中ホール

(静岡鉄道 桜橋駅下車、徒歩約2分)

チケット 小学生以下:無料、中学生以上:前売券1000円・当日券1200円

出演 GRUPO ANDENES(グルーボ アンデネス)、有度幼稚園、静岡市ろうあ協会女性部

※詳細はビラを見てください！

ありんこの里をつくる会の通所者の紹介について

2008年9月から「ありんこの里をつくる会」は毎週月、水、木、金曜日の週4回での作業をスタートしました。

現在、ろう重複障害者や高齢者、ボランティアの方で作業を進めていますが、通所しているろう重複障害者は1名という状況です。

静岡中部でろう重複障害者や仕事がなく家に引きこもっている方がいましたら、ろう協までご連絡くだ

役員派遣について

清水区手話サークル「たつの子会」に、ろう会員の参加が少なくサークルとしても困っている、という問題があり、役員会で検討した結果、1~3月の毎週、役員が交代で「たつの子会」に参加することが決まりました。

清水区のろう協会員の皆さんも、市民へのろうあ者や手話の理解を広めるために、また手話通訳者の育成のためにも積極的に「たつの子会」へ参加をお願いします。

今後の行事予定

※詳細については各行事の案内ビラで確認してください。

日程	内容	場所
2008/01/17(土)	青年部学習会	静岡ろう学校
2008/01/24(土)	静岡ろう学校交流会(青年部)	静岡ろう学校
2008/01/24(土)	教育技術向上研修会・全通研事前学習:	シズウェル
2008/01/25(日)	第13回ろう教育静岡フォーラム	プラザおおるり(島田市)
2009/02/01(日)	手話健康管理講習会	シズウェル
2009/02/07(土)~08(日)	老壮年部茶話会	中央福祉センター
2009/02/07(土)~08(日)	全国ろう将棋大会	シズウェル
2009/02/11(水・祝)	静岡市手話サークル連絡会ボウリング	狐ヶ崎ヤングランドボウル
2009/02/14(土)~15(日)	中サ連一泊研修会	プラザおおるり・山の家(島田市)
2009/02/14(土)~15(日)	全通研・冬の集会	千葉県市川市 和洋女子大学
2009/02/14(土)	第3回ありんこの会チャリティ音楽祭	清水文化センター
2009/02/22(日)	静岡県デフヤングフェスティバル	長泉町
2008/03/01(日)	未来へはばたけみみの日大会	浜北
2008/03/08(日)	県内研	シズウェル
2008/03/15(日)	評議員会・通常総会	パルシェ会議室
2008/04/05(日)	第40回静岡県ろうあ青年の集い	はーとぴあ清水
2008/04/19(日)	第回静岡県ろうあ者体育大会	沼津市
2008/05/24(日)	平成21年度 静岡市ろうあ協会 定期総	はーとぴあ清水

《お詫び》

「漢字が読めない所があるので、振り仮名をつけて欲しい」という声がありました。

今回は、適切な関係で間に合いませんでしたが、次号からは取り入れる予定です。

原稿募集

団体の動き、話題、会員消息、問題提起など、
 どんどん原稿を出して下さい。

☆締切日 3月7日

☆投稿先

FAX 054-354-0184

Eメール gdeh_tree3@yahoo.co.jp

機関紙担当 森 匡之

※次回発行(4号)は、4月7日の予定

編集後書き

2008年の機関誌も今回で最後の発行となります。今回は原稿の提出が多く、ページも通常より2ページ多めに、原稿中心の機関紙になってしまいましたが、参加者の生の声を反映した行事の雰囲気をつかんで頂けたらと思っています。

また、原稿等もお待ちしています。(連絡先は左枠参照。)

総務部員・機関紙担当 森 匡之